

校長先生のあのね帳 10月5日 NO.137

これまでの半年 これからの半年

この4月から私はあるリハビリ・デイサービスセンターに土曜日の午前中に通って、運動機能の回復トレーニングを受けています。私が利用する時間帯は8人が定員で、周りは大先輩のみなさんばかりです。その中でも、際立っているおばあさん(Aさん)がいらっしゃいます。

Aさんは今年90歳だそうです。でも、見た目は全くそのようなお歳には見えません。実際、9時から11時までのトレーニングメニューすべてを休憩も入れながらこなしておられますし、よほどのことがない限りお休みもされません。お仲間さんたちとの会話も弾んでいて、いつも楽しそうです。

少し前にAさんとお話しする機会がありました。曾孫さんがいること、トレーニングが終わったらお仲間の皆さん4人で一緒に昼ご飯を食べて帰ること。帰宅後はご自宅に皆さんを招いて毎回マージャンをして楽しむことなど、笑顔で教えてくれました。実年齢には見えないAさんの若さの秘密がわかったような気がしました。

しかし、先日私はAさんの若さの秘密をあと一つ見つけました。それは、**Aさんがとにかくよくあいさつされるということです。**

「おはようございます。」「さようなら。」やお名前を呼ばれたら「はい。」はもちろん、お世話になる先生にまず「お願いします。」と言い、メニューが終わるごとに「ありがとうございました。」とおっしゃるのです。あいさつしようと構えてお話しするのではなく、ごく自然に、身に付いたものとしておっしゃるので、見ていて、聞いていてとても感じがいいのです。心の若さは実年齢よりも人を若々しくさせることを、Aさんから学ばせてもらっています。ありがたいことです。

若いと言えば、今、運動会の練習に汗を流している元気いっぱいの子どもたちです。でも、**少し気になることが二つあります。**

ひとつは、**今年はこどもたちの歯の汚れが多いこと。**もう一つは**自分から進んでのあいさつが少なくなってきたこと**です。二つとも、少なくとも昨年度まではできていたことです。それが今年できなくなってきたのには、なにか理由がありそうです。

コロナ禍で始まった本年度も折り返し点に来ました。残された時間や感染予防など制約は多いですが、**Aさんのように、体だけでなく心もみずみずしいこどもたちに育てることをゴールとして、この半年間の取り組みをふりかえってみよう**と考えています。

(学校だより 10月号より)